

鹿島小だより

第13号 令和元年6月6日(木)発行 文責：鈴木

【電話】0244-46-2240【ホームページ】<https://minamisoma.fcs.ed.jp>

平成31年度(令和元年度)重点目標「よりよく考え、ねばり強くやってみよう」

私たちの安全・安心な暮らしを守るために



4年生は社会科で、「事故や事件から暮らしを守る」という学習をしています。その一環として、5月27日(月)に南相馬警察署の見学に出かけました。まず警察署ではどんな仕事をしているのか教えていただきました。南相馬警察署内には、子どもが悪いことをしないように指導する生活安全課や、事件を捜査したり犯人を捕まえたりする刑事課、交通事故の処理をしたり交通違反の取り締まりをしたりする

交通課、町の安全を守るためにパトロールをしたり家庭訪問をしたりする地域課などがあるそうです。また、普段街中を警らする時にも、警棒と手錠を持ち歩いていることも教わりました。警察署の駐車場で、パトカーや白バイにも乗せていただきました。以前見学した消防署と同じように、私たちが安心して安全に暮らせるように、警察署の皆さんも24時間365日休まず仕事をしてくれています。

いつまでも健康な歯で

6月4日から10日までは「歯と口の健康週間」です。その意識を高めるために、5月28日(火)には原町保健センターの歯科衛生士・和田さんと早川さんにお越しいただき、3年生で歯科教室を行いました。歯には前歯と犬歯、奥歯の3種類があり、大人になると28本の歯がはえそろうことを教えていただきました。また、口に食べ物がいつまでも残っているとむし歯菌が活動しはじめ、プラーク(歯垢)が作り出されることによって酸が出てきて、それが歯の表面を溶かしむし歯になっていくそうです。実際に歯ブラシを使って、正しいブラッシングの仕方も教わりました。健康な歯でいつまでもおいしい食事を摂ることができるよう、食後にきちんと歯磨きすることの大切さが分かりました。



《裏面もご覧ください》

「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」

皆さんは、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」という言葉を聞いたことがありますか。「ふわふわ言葉」とは、言われるとうれしくなる、心が温かくなる言葉です。反対に「ちくちく言葉」とは、言われると傷つく、嫌な気持ちになる言葉です。下に例をいくつか挙げてみます。

ふわふわ言葉	ちくちく言葉
ありがとう ごめんなさい すみません こんにちは おはよう さようなら 大丈夫? どうしたの? 一緒に遊ぼう 仲良くしよう よろしくね すごいね やったね がんばって かわいいね よかったね	死ね 殺すぞ 消えろ うせろ あほ ばか カス ぼけ むかつく うざい きもい くさい きたない でぶ ブス ちび たこ のろま 最低 絶交 黙れ 目障りだ くそ野郎 頭悪い ばい菌 無視

最近では、子どもがよく見るバラエティー番組の中でも、出演している人たちの会話の中に「ちくちく言葉」のような心ない言葉を耳にします。子どもたちが大好きなゲームなどでも、アクション系やバイオレンス系のものに「死ね」「消えろ」などの言葉が飛び交います。しかし、テレビやゲームの世界と、私たちの毎日の日常生活では違うのだということ認識する必要があります。皆さんのご家庭ではどうでしょうか。残念なことに、本校でも子どもたちの会話の中に、このような「ちくちく言葉」が聞こえてくるのが少なくありません。また、何かトラブルを起こして先生方から注意を受けた時に、子どもから「ちくちく言葉」が返ってくる場合があります。言っている方はどんな気持ちなのでしょう。

言葉遣いが好ましくない子どもは、周囲の人が「うざい」「消えろ」などといった言葉を連発している環境で育ったことが原因でそうなってしまうケースと、外からの影響で悪い言葉を覚え、その言葉を発しても何も注意されないまま育ったためにそうなってしまうケースがあるとされています。子どもの頃から吐き捨てるような攻撃的な言葉を遣っていると、それがいつしか口癖になり、将来に渡って悪い印象や評価を受けることにもつながり、本人にとってはとてもマイナスなことです。そんな言葉を遣いながら育った子どもは、将来どんな大人になるのでしょうか。テレビが悪い、ゲームが悪い、友だちが悪いなどと、周囲にその原因を押し付けるのは簡単ですが、根本的な解決にはなりません。私たち大人がまず好ましい言葉遣いを心がけ、子どもたちの間でも「ふわふわ言葉」が多く交わされるようになると、みんなが穏やかな優しい気持ちで生活できると思います。

【この文章は昨年6月にも掲載しました。学校でも、子どもたちの言葉遣いがとても気になる時があります。ご家庭ではどうでしょうか?】

